

保育者効力感測定尺度の開発過程に関する批判的論評

井上 祐子¹⁾・高橋 順一²⁾・中嶋 和夫³⁾・黒木 保博⁴⁾

抄録

本研究は、保育者効力感測定尺度を取り上げ、特にその開発過程に対して統計学的な観点から批判的論評を行うことを目的とした。研究論文の収集には、「CiNii」と「ERIC」を使用した。収集した15件の研究論文の中から抽出できた保育者関連の効力感測定尺度は7種類に集約された。分析では、尺度開発における内容的妥当性と構成概念妥当性に着目し、その検討のために適切な統計学的手法が採用されていたか否かを評価した。その結果、著者らは「多次元保育者効力感尺度」のみが開発過程において適切な統計手法を採用していたと判断した。この尺度が保育内容の一つである「人間関係」に関する効力感のみを測定していることを勧告するなら、今後は、保育内容5領域に関連した保育者効力感測定尺度の開発が望まれよう。

キーワード：保育者、保育者効力感、測定尺度、批判的論評、妥当性

目次

I. 序論

II. 本論

II-1. 分析に用いた研究論文の概要

II-2. 保育者効力感に関連する測定尺度の概要

II-3. 保育者効力感に関する測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性の 検討

III. 結論

1) 鹿児島純心女子大学国際人間学部こども学科

2) 同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程

3) 岡山県立大学名誉教授

4) 同志社大学社会学部教授

I. 序論

保育所保育指針（以下、「保育指針」という）の第4次改定（2017）は、幼稚園教育要領（以下、「教育要領」という）の改訂¹⁾に向けた検討を踏まえたものであり（厚生労働省 2016）、また中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育部会においても、保育指針の改定²⁾と同時期に教育要領の改訂が審議され、保育指針、教育要領の他、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、「教育・保育要領」という）も改訂されるに至っている。2020年代から学習指導要領の全面改訂が予定される中、今回の改訂では、子どもの育ちを幼児教育から小学校、中学校、高等学校まで一貫してとらえることが重視されている。現行の教育要領は、遊びを中心とした生活を通じて生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを基本に、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域を示し、それらを相互に関連させながら徐々に育むこととしている。それ故に幼児教育は教科を中心とする小学校以上の教育とは異なり、この点が幼児教育と小学校教育との円滑な接続における大きな課題として位置づけられよう。この課題に対して、保育者は教育要領、教育・保育要領との整合性を図った保育指針を基準に、子ども達の発達や学びの連続性に着目し、小学校以降の生活や学習の基礎を培う役割を求められる可能性があり、高い保育能力を身につける必要性が求められるものと推察される。

保育能力の向上については、「保育者効力感」という概念が多様化する保育環境において有効な保育を展開していく要因になることが指摘されている（田辺 2011）。この保育者効力感は「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念」と定義され、「教師効力感」の保育者版ともいわれている（三木・桜井 1998）。教師効力感とは Bandura, A. (1977) の自己効力感 (self-efficacy) の概念を教育に応用したものである。なお、自己効力感とは、Bandura (1977) が提唱した社会的学習理論の中核をなす概念のひとつであり、「ある状況において、ある結果を達成するために必要な行動を自分が上手くできるかどうかの予期」と定義されている。この自己効力感とは、①効力予期 (efficacy expectancy; ある結果

を生み出すために必要な行動をどの程度うまく行うことが出来るのかという予期)と②結果予期(outcome expectancy;ある行動がどのような結果を生み出すのかという予期)の2つに区分される。そこで、本研究では、保育者効力感について、Bandura が提唱した社会的学習理論における自己効力感(self-efficacy)を援用し、「子ども達の発達のために、必要な援助を保育者がうまくできるかどうかの予期」と操作的に定義し、保育能力の向上に関して、保育者効力感に着目することとした。

従来の保育者効力感に関する研究を概観すると、これまで、保育者効力感尺度の信頼性と妥当性を確かめた上で、1) 保育者効力感に与える教育実習の影響を検討した研究(三木・桜井 1998)、2) 保育者効力感と保育実習評価との関連を検討した研究(水野 2001)、3) 保育者の精神的健康に保育者効力感が与える影響に関する研究(西坂 2002; 前田・金丸・畑田 2009)、4) 保育者効力感と心理社会的要因(共感性・問題解決型行動特性・情緒的支援ネットワーク)に対する過去の遊び経験(遊びの種類・遊びの要素)の影響に関する研究(渡部・嶋崎 2004)、5) 学生たちの保育者効力感と食事行動の関連について探索的資料を得た研究(岩井 2004)、6) 保育者効力感の発達に関する研究(中村 2006)、7) 実習に対する評価が保育者効力感に与える影響に関する研究(浜崎・加藤・寺薗・荒木・岡本 2008)、8) 保育者効力感と子ども観の関連に関する研究(朝木・鈴木 2009)、9) 心身ともに健康な子どもを育むための保育実践の内容について保育者効力感の視点から検討した研究(田辺 2011)、10) 保育者のストレスが職務に対する精神状態に及ぼす影響に関する研究(池田・大川 2012)、11) 保育職就労者の保育者効力感が離職動機に及ぼす影響を検討した研究(田頭 2012)、12) 保育者効力感に、保育者志望動機、一般性自己効力感、学業ストレス対処方略がどのように影響を及ぼすのか検討した研究(田頭 2015)、13) レジリエンスと保育者効力感の関連を検討した研究(川村・庄司・三木 2015)、14) 保育職への理解や適性感などの職業認知に関わる要因が保育者効力感を高めるか否かについて検討した研究(小河・長屋 2015)、15) 保育者効力感の因子構造を、短期大学1年生・2年生と保育者の調査結果から検討

するとともに、保育者の保育者効力感に焦点を当て、保育者効力感の変化を検討した研究（田頭 2016）、16）実習直前直後の保育士職就業適性度を含む実習自己評価と PTE（Pre-school Teacher Efficacy：保育者効力感）との関係について検討した研究（三木 2016）などが蓄積されている。

上記の研究論文において、保育実践の内容から保育者効力感を検討した研究は、田辺（2011）のみであり、「健康」に限定した保育者効力感尺度を用いて保育者の資質向上について検討していた。今後、保育指針、教育要領、教育・保育要領の3法令の整合性が図られたことによる、子ども達の発達や学びの連続性に着目した保育者効力感の構成概念を検討して尺度開発に取り組み、研究成果を蓄積する必要があるだろう。そのためには保育者効力感の数量化が可能な尺度の開発もまた重要な研究課題となつてこよう。保育者効力感という現象を測定する尺度を開発するには妥当性（内容的妥当性や構成概念妥当性等）と信頼性の検討が大前提である。保育者による子どもの発達の援助において、科学的に有効な介入を検討するためには、統計学的に妥当性が検討された保育者効力感測定尺度を開発することが急務と言えよう。

そこで本研究では、保育者効力感の尺度開発に関する指針を得ることをねらいとして、保育者効力感測定尺度を用いた国内外の研究論文について統計学的な視点から批判的論評を行うことを目的とした。

研究論文の収集において、国内文献の検索には「CiNii」（NII 学術情報ナビゲータ [サイニィ]）を用い、このときの検索キーワードは「保育者効力感 AND 保育者 AND 尺度」とした。海外文献の検索には「ERIC」（Education Resources Information Center）を用い、このときの検索キーワードは「preschool teacher's sense of efficacy AND preschool teacher AND research, scale, index」とした。

上記のデータベースにおいて抽出された文献は、さらに以下の①～⑦の選定基準に従い、分析に資する文献の絞り込みを行った。その選定基準は、①重複している文献は削除すること、②出典不明の文献は削除すること、③入手困難な文献は削除すること、④保育者と保育専攻の学生を研究対象としていること、

⑤実証的に検討していること、⑥保育内容に関わる保育者効力感について検討していること、⑦保育者効力感を測定するための尺度が使用されていること、である。なお、「⑤実証的に検討していること」という選定基準を設け、定性的研究（質的研究や事例研究、文献研究等）を除いた理由は、質的研究や事例研究、文献研究等においては、数量化された測定尺度が用いられていないことに依る。

以上の基準で選定した研究論文に対し、尺度開発における内容的妥当性と構成概念妥当性に着目し、それぞれに適切な統計学的手法が採用されているか否かを整理した。内容的妥当性は、①探索的因子分析が最尤法もしくは最小二乗法を用いてなされているか（豊田 2000）、②因子抽出における回転法は直交回転ではなく因子間に相関を認める斜交回転であるか（豊田 1998）を評価基準とした。また構成概念妥当性に関しては、③構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling）を用いて確認的因子分析がなされているか（豊田 1998）を評価基準とした（高橋・黒木・中嶋 2014; 孟 2015; 山本・西村・山口・出井・中嶋 2017; 西村・出井・中嶋・山口 2017）。

なお、倫理的配慮として、「日本社会福祉学会 研究倫理指針 第2 指針 内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討に際しては、現著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説との峻別を行った。

II. 本論

II-1. 分析に用いた研究論文の概要

「CiNii」において、検索キーワードを「保育者効力感 AND 保育者 AND 尺度」としたとき、18 件の研究論文が抽出された。

また「ERIC」において、検索キーワードを「preschool teacher's sense of efficacy AND preschool teacher AND research, scale, index」としたところ、25 件の研究論文が抽出された。

それら 43 件の研究論文を上記の①～⑦の選定基準に従い、検討すべき論文を選定した。なお、CiNii では、さまざまな機関が提供しているデータベース

のデータを収録しており、データベース毎に検索結果が示される。このため、国立国会図書館デジタルコレクションと J-STAGE の 2 機関にデータが収録されている研究論文（西坂 2002）、CiNii PDF オープンアクセスと機関リポジトリの 2 機関にデータが収録されている研究論文（三宅 2005）、J-STAGE と保育学研究の 2 機関にデータが収録されている研究論文（西山 2006）の 3 件の研究論文を重複した文献とした。43 件のうち、重複した文献が 3 件、出典不明の文献が 2 件、入手困難な文献が 2 件、親や子ども、小中高一貫校の教師等を研究対象とした文献が 6 件（Petrie, et al. 2006 ; Barnes, et al. 2006 ; Feil, et al. 2008 ; Buysse, et al. 2012 ; Pekdogan, et al. 2016 ; Vukušić 2018）、事例研究、対照実験、インタビュー、文献研究等の文献が 10 件（三宅 2005 ; Davis, et al. 2007 ; Jamil 2012 ; Tanriseven 2013 ; Tortop 2014 ; 井上 2014 ; Ottley, et al. 2015 ; Akçay 2016 ; Wetzels, et al. 2016 ; Pracana, et al. 2016）、算数や理科といった教科教育、と特別支援教育に関わる保育者効力感について検討している文献が 3 件（Hakan, et al. 2009 ; Aydogdu, et al. 2016 ; Aslan, et al. 2016）、保育者効力感を測定するための尺度を用いず、Psychological Capital（心理的資本）、Professional Commitment（専門的コミットメント）、教育実習不安を測定するための尺度を用いた文献が 2 件（本多・櫻井 2011 ; Lee, et al. 2017）であった。それらを除き、保育者効力感を測定するための尺度が使用されているものに限定すると、15 件が分析の対象論文として残った（図 1）。

上記の 15 件の研究論文の研究対象に関する内訳は、重複しているものもあるが、保育者（幼稚園教諭と保育士を含む）を対象とした文献が 8 件、学生を対象とした文献が 10 件であった。分析対象とした 15 件の研究論文において使用されている保育者効力感測定尺度は 7 種類あり（重複している尺度はカウントせず）、それは三木・桜井（1998）による「保育者効力感尺度」が 5 件（西坂 2002 ; 小藺江 2009 ; 桐村・岡本・森田 2010 ; 小藺江 2013 ; 小藺江 2014）、「Tschannen-Moran and Hoy（2001）による The Ohio State teacher efficacy scale（OSTES）」が 1 件（Cobbold and Boateng 2016）、岩井式の「保育者効力感尺度」を用いている研究論文は 1 件（岩井 2003）、Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya（2005a）による「Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy

Scale」が2件（Orçan 2013；Toran 2017）、西山（2005）による12項目「人間関係」尺度が1件（西山 2005）、西山（2006）による「多次元保育者効力感尺度」が5件（西山 2006；小林・浅野 2016；中山 2016；芝崎 2017；京林・中村・佐藤・中野・池田・新山・樟本 2017）、小藺江（2009）による「保育実習自己効力感尺度」が3件（小藺江 2009；小藺江 2013；小藺江 2014）であった（表1）。

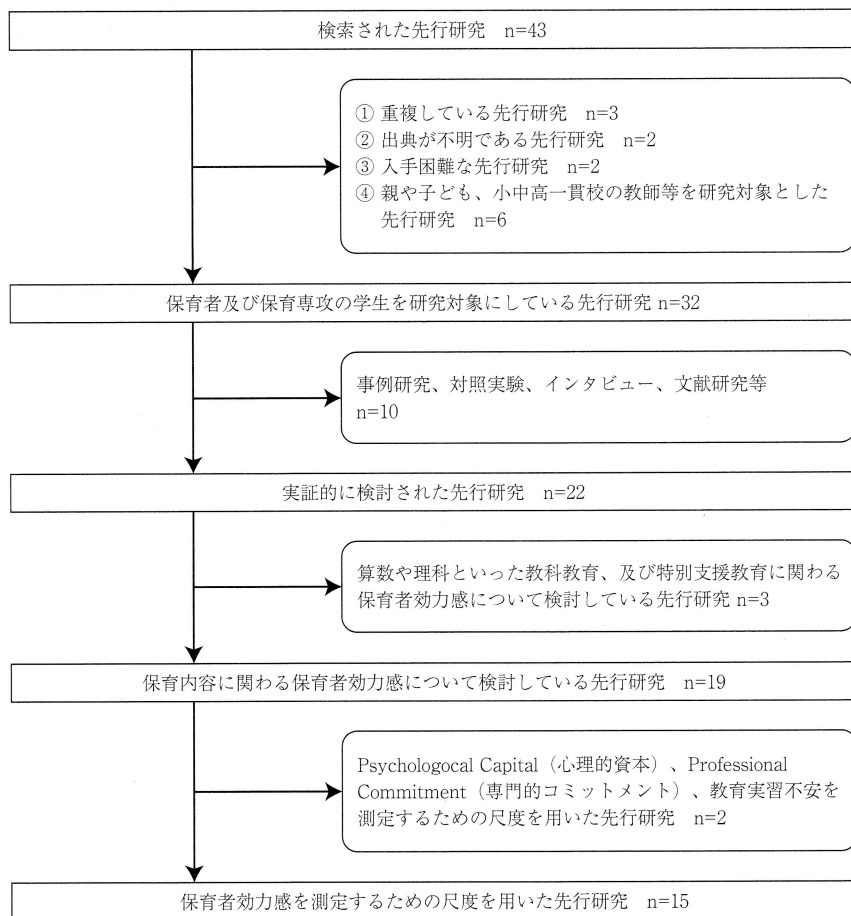


図1 分析に必要な研究論文の選定の流れ

表1 保育者効力感測定尺度を用いた研究論文

	筆者	タイトル	対象者	使用した尺度	概要
1	西坂 (2002)	幼稚園教諭の精神的健康に及ぼすストレス、ハーディネス、保育者効力感の影響	幼稚園 教諭 n=186	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998)	幼稚園教諭のストレス評価に保育者効力感が与える影響について検討した。
2	岩井 (2003)	保育者効力感と親からの自立	保育専攻 短大生 n=180	保育者効力感尺度 (岩井 2003)	保育者効力感と親からの自立について、探索的資料を得た。
3	西山 (2005)	幼児の人とかかわる力を育むための保育者効力感尺度の開発	保育者 n=276 大学生 n=313	12項目「人間関係」尺度 (西山 2005)	「人間関係」保育者効力感に特化した、単因子構造を仮定して作成された12項目からなる尺度を開発した。
4	西山 (2006)	幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成	保育者 n=378 大学生 n=258	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	探索的因子分析により「人間関係」保育者効力感を多次元から測定する新たな尺度を作成し、確認的因子分析により、その構造を検討した。
5	小藺江 (2009)	保育実習自己効力感尺度作成の試み	保育専攻 短大生 n=125	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998) 保育実習自己効力感尺度 (小藺江 2009)	保育実習を通して学生の自己効力感がどのように変化するかを明らかにし実習の効果を検討した。
6	桐村・ 岡本・ 森田 (2010)	常勤保育者と学生の保育者効力感の比較	常勤保育者 n=373 保育専攻学生 n=79	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998)	保育専攻学生と常勤の保育者効力感尺度を比較し、学生と常勤保育者の違いを分析した。
7	Maide Orçan (2013) トルコ	Examination of Self-Efficacy and Burnout Dynamics of Preschool Teachers in Turkey and the United States	アメリカの 保育者 n=32 トルコの 保育者 n=58	Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Capa, Cakiroglu and Sarikaya 2005a)	トルコとアメリカにおける保育者の自己効力感とバーンアウトについて比較検討した。
8	小藺江 (2013)	保育実習が学生の自己効力感に与える影響：保育専攻学生2年間の縦断的データの分析	保育者養成校の 学生 n=200	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998) 保育実習自己効力感尺度 (小藺江 2009)	「机上の学習の進行に伴って学生の自己効力感とは下がり、実際にスキルを身に着けることにより自己効力感は高くなる」という仮説を検討した。
9	小藺江 (2014)	保育実習が学生の自己効力感に与える影響：実習回数の違いによる自己効力感の特徴	実習3回目の 学生 n=210 実習4回目の 学生 n=150 実習4回目と 5回目の学生 n=200 初回実習の 学生 n=200	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998) 保育実習自己効力感尺度 (小藺江 2009)	実習前後の変化について比較することで、実習が及ぼす影響が自己効力感のどのような部分に作用するのを検討した。

	筆者	タイトル	対象者	使用した尺度	概要
10	Cosmas Cobbold and Philip Boateng (2016) ガーナ	How Confident Are Kindergarten Teachers in Their Ability to Keep Order in the Classroom? A Study of Teacher Efficacy in Classroom Management	保育者 n=299	The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)	クラス運営における保育者の効力信念について検討した。
11	小林・浅野 (2016)	大学生の保育者効力感の規定要因：教育実習の効果と社会的スキルの影響	幼児教育を主として専攻する大学生 n=35	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	領域「人間関係」に対する保育者効力感の規定要因について、まず教育実習の前後で保育者効力感を測定し、教育実習が保育者効力感に影響を及ぼすかどうか、次に教育実習前の学生の社会的スキルの程度が教育実習後の保育者効力感にどのような影響を及ぼしているか、この2点を検討した。
12	中山 (2016)	教育・保育実習による保育者効力感の変化に二次元レジリエンスが及ぼす影響	保育学生 n=92	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	教育・保育実習を通じた、保育学生の保育者としての効力感の変化に、学生自身のレジリエンスがどのように影響しているかを縦断的に検討した。
13	芝崎 (2017)	領域「人間関係」保育者効力感における協同学習の効果の検討	保育学生 n=50	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	領域「人間関係」に関する授業における協同学習が保育学生の保育者効力感に与える影響を検討した。
14	京林・中村・佐藤・中野・池田・新山・樺本 (2017)	幼稚園教諭免許状取得の特例講座を受講する保育士の保育者効力感の特徴：領域「人間関係」の保育者効力感の観点から	保育士 n=38	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	保育教諭への対応のために特例制度を利用し幼稚園教諭免許状の取得を目指す保育士の保育者効力感について、保育内容の領域「人間関係」の保育者効力感に焦点を当てその特徴を検討した。
15	Mehmet Toran (2017) トルコ	An Analysis of Preschool Teachers' Sense of Efficacy: A Case of TRNC	保育者 n=191	Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Capa, Cakiroglu and Sarikaya 2005a)	保育者効力感に影響を及ぼす要因について検討した。

Ⅱ－２．保育者効力感に関連する測定尺度の概要

前述した①～⑦の尺度の概要は以下のとおりである。

①保育者効力感尺度（三木・桜井 1998）

保育者効力感尺度（三木・桜井 1998）は、桜井（1992）が作成した教師効力感尺度を保育者あるいは保育専攻学生に適用可能な内容に改訂したものである。尺度は10項目（表2）で構成し、「非常にそう思う：5点」「ややそう思う：4点」「どちらともいえない：3点」「あまりそうは思わない：2点」「ほとんどそうは思わない：1点」までの5段階評定を採用している。

② The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)

The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001) は、現職教員と大学生を対象とし、教育方法、学級運営、学生エンゲージメント（生徒の学校への関わり）に対する効力感を捉えた内容である。尺度は12項目バージョン（表3）、24項目バージョン（表4）があり、各項目において、『とてもできる：9点』『かなりできる：7点』『いくつかできる：5点』『とてもできない：3点』『何もできない：1点』までの9段階評定を採用している。

③保育者効力感尺度（岩井 2003）

保育者効力感尺度（岩井 2003）は、三木・桜井（1998）が作成した保育者効力感尺度に、子どもを支えるあるいは援助することに関する5項目を加えたものである。尺度は15項目（表5）で構成し、「非常にそう思う：5点」「ややそう思う：4点」「どちらともいえない：3点」「あまりそうは思わない：2点」「ほとんどそうは思わない：1点」までの5段階評定を採用している。

④ Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a)

Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a) は、Tschannen-Moran and Hoy (2001) が作成した The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) の24項目バージョンを採用し、トルコの現任教員に適用可能な内容に改訂したものである（表6）。尺度は、

各項目において、『とてもできる：9点』『かなりできる：7点』『いくつかでできる：5点』『とてもできない：3点』『何もできない：1点』までの9段階評定を採用している。

⑤ 12項目「人間関係」尺度（西山 2005）

12項目「人間関係」尺度（西山 2005）は、保育者あるいは保育専攻学生を対象とし、保育内容「人間関係」に関する内容である。尺度は12項目（表7）で構成し、「非常にそう思う：7点」「かなりそう思う：6点」「ややそう思う：5点」「どちらともいえない：4点」「ややそう思わない：3点」「かなりそう思わない：2点」「全くそう思わない：1点」までの7段階評定を採用している。

⑥ 多次元保育者効力感尺度（西山 2006）

多次元保育者効力感尺度（西山 2006）は、保育者あるいは保育専攻学生を対象とし、「子どもの人とのかかわる力の育ちに望ましい変化を与えることができる」という保育者の信念や実現可能性の認知を捉える内容である。尺度は25項目（表8）で構成し、「非常に自信がある：7点」「かなり自信がある：6点」「やや自信がある：5点」「どちらともいえない：4点」「やや自信がない：3点」「かなり自信がない：2点」「全く自信がない：1点」までの7段階評定を採用している。

⑦ 保育実習自己効力感尺度（小藺江 2009）

保育実習自己効力感尺度（小藺江 2009）は、保育学生を対象とし、保育学生の自己効力感を実習生活全般から捉えた内容である。尺度は28項目（表9）で構成し、「非常にそう思う：5点」「ややそう思う：4点」「どちらともいえない：3点」「あまりそう思わない：2点」「ほとんどそう思わない：1点」までの5段階評定を採用している。

表 2 保育者効力感尺度（三木・桜井 1998）

番号	保育者効力者尺度質問項目
1	私は、子どもにわかりやすく指導することができると思う
2	私は、子どもの能力に応じた課題を出すことができると思う
3	保育プログラムが急に変更された場合でも、私はそれにうまく対処できると思う
4	私は、どの年齢の担任になっても、うまくやっていけると思う
5	私のクラスにいじめがあったとしても、うまく対処できると思う
6	私は、保護者に信頼を得ることができると思う
7	私は、子どもの状態が不安定な時にも、適切な対応ができると思う
8	私は、クラス全体に目をむけ、集団への配慮も十分できると思う
9	私は、1人1人の子どもに適切な遊びの指導や援助を行えると思う
10	私は、子どもの活動を考慮し、適切な保育環境（人的、物的）に整えることに十分努力ができると思う

表 3 The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES)
(Tschannen-Moran and Hoy 2001) 12 項目バージョン

番号	項 目
第1 因子：教育方法に対する効力	
1	さまざまな評価方法をどの程度まで使用できますか？
2	生徒が混乱している時、代わりの説明や例をどの程度まで提供できますか？
3	生徒にどの程度まで良い質問をすることができますか？
4	教室で代わりの方法をどれくらいうまく実施できますか？
第2 因子：クラス運営に対する効力	
5	学級を混乱させる行動を、どれくらい監督できますか？
6	子ども達がクラスのルールに、どれくらい従うようにできますか？
7	混乱させたり、騒々しい学生を、どれくらい鎮めることができますか？
8	各生徒グループと一緒に、どのように上手に教室運営システムを構築できますか？

第3 因子：学生のエンゲージメント（生徒の学校への関わり）に対する効力	
9	学校でうまくやることができると学生に思わせることが、どのくらいできますか？
10	生徒の学ぶ価値を、どれくらい高めることができますか？
11	勉強に興味がない生徒に動機づけすることが、どのくらいできますか？
12	子どもが学校でうまくいくように、どの程度、家族を助けることができますか？

筆者作成（資料）The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES)
(Tschannen-Moran and Hoy 2001)

表 4 The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001) 24 項目バージョン

番号	項 目
第1 因子：教育方法に対する効力	
1	さまざまな評価方法をどの程度まで使用できますか？
2	生徒が混乱している時、代わりの説明や例をどの程度まで提供できますか？
3	生徒にどの程度まで良い質問をすることができますか？
4	教室で代わりの方法をどれくらいうまく実施できますか？
5	生徒からの難しい質問にどれだけうまく対応できますか？
6	個々の生徒にとって適切なレベルに、授業をどのくらい調整できますか？
7	あなたが教えていることをどの程度理解することができますか？
8	あなたは非常に能力の高い生徒にどのように適切な課題を提供できますか？
第2 因子：クラス運営に対する効力	
9	学級を混乱させる行動を、どれくらい監督できますか？
10	子ども達がクラスのルールに、どれくらい従うようにできますか？
11	混乱させたり、騒々しい学生を、どれくらい鎮めることができますか？
12	各生徒グループと一緒に、どのように上手に教室運営システムを構築できますか？

13	問題のある生徒が授業全体を混乱させないように、どのくらいうまく保つことができますか？
14	あなたは反抗的な生徒にどれだけうまく対応できますか？
15	学生の行動について、どの程度まで明確に予想することができますか？
16	活動を円滑に運営するためのルーティンをどのくらいうまく確立することができますか？
第3 因子：学生のエンゲージメント（生徒の学校への関わり）に対する効力	
17	学校でうまくやることができると学生に思わせることができますか？
18	生徒の学ぶ価値を、どのくらい高めることができますか？
19	勉強に興味がない生徒に動機づけすることが、どのくらいできますか？
20	子どもが学校でうまくいくように、どの程度、家族を助けることができますか？
21	勉強が遅れている学生の理解を、どのくらい向上させることができますか？
22	生徒が批判的に考えることを、どのくらい助けることができますか？
23	生徒の創造性を、どのくらい育むことができますか？
24	最も難しい学生に、どのくらい関わることができますか？

筆者作成（資料）The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES)
(Tschannen-Moran and Hoy 2001)

表 5 保育者効力感尺度（岩井 2003）

番号	項 目
1	子どもにわかりやすく指導することができると思う。
2	子どもの能力に応じた課題を出すことができると思う。
3	保育プログラムが急に変更された場合でも、それにうまく対処できると思う。
4	どの年齢の担任になっても、うまくやっていけると思う。
5	クラスにいじめがあったとしても、うまく対処できると思う。
6	保護者に信頼を得ることができると思う。
7	子どもの状態が不安定な時にも、適切な対応ができると思う。
8	クラス全体に目をむけ、集団への配慮も十分できると思う。

9	1人1人の子どもに適切な遊びの指導や援助を行えると思う。
10	子どもの活動を考慮し、適切な保育環境（人的、物的）に整えることに十分努力ができると思う。
11	子どもの心の動きを読みとることができると思う。
12	子どもが安心してそばに寄ってきやすいほうだと思う。
13	子どもとなんとなく気が通じ合うことが出来ると思う。
14	子どもは必ず私の言うことを聞いてくれると思う。
15	子どもの動きは、どんなことでも、すべて面白いと思う。

表6 Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale
(Çapa, Çakiroğlu and Sarıkaya 2005a)

番号	項 目
1	最も難しい学生に、どのくらい関わることができますか？
2	生徒が批判的に考えることを、どれくらい助けることができますか？
3	学級を混乱させる行動を、どれくらい監督できますか？
4	勉強に興味が無い生徒に動機づけすることが、どのくらいできますか？
5	学生の行動について、どの程度まで明確に予想することができますか？
6	学校でうまくやることができると思わせることが、どのくらいできますか？
7	生徒からの難しい質問にどれだけうまく対応できますか？
8	活動を円滑に運営するためのルーティンをどれくらいうまく確立することができますか？
9	生徒の学ぶ価値を、どれくらい高めることができますか？
10	あなたが教えていることをどの程度理解することができますか？
11	生徒にどの程度まで良い質問をすることができますか？
12	生徒の創造性を、どれくらい育むことができますか？
13	子ども達がクラスのルールに、どれくらい従うようにできますか？
14	勉強が遅れている学生の理解を、どれくらい向上させることができますか？
15	混乱させたり、騒々しい学生を、どれくらい鎮めることができますか？

16	各生徒グループと一緒に、どのように上手に教室運営システムを構築できますか？
17	個々の生徒にとって適切なレベルに、授業をどのくらい調整できますか？
18	さまざまな評価方法をどの程度まで使用できますか？
19	問題のある生徒が授業全体を混乱させないように、どのくらいうまく保つことができますか？
20	生徒が混乱している時、代わりの説明や例をどの程度まで提供できますか？
21	あなたは反抗的な生徒にどれだけうまく対応できますか？
22	子どもが学校でうまくいくように、どの程度、家族を助けることができますか？
23	教室で代わりの方法をどれくらいうまく実施できますか？
24	あなたは非常に能力の高い生徒にどのように適切な課題を提供できますか？

筆者作成（資料） Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale
 (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a; Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005b)

表 7 12 項目「人間関係」尺度（西山 2005）

番号	項 目
1	私は、自発性や主体性を尊重した遊びによる保育を実践できると思う
2	私は、友達との関係の中で、自己主張や自己抑制を学びとっていけるような保育ができると思う
3	私は、子どもとの愛情のあるある温かい人間関係を保育の中で実現できると思う
4	私は、子どもの人間関係の育ちについて一人一人の発達過程に即した援助ができると思う
5	私は、子どもが様々な人と触れ合いながら人間関係を広げていけるよう援助ができると思う
6	私は、園生活の中で、必要な道徳性を身につけるように保育することは難しいと思う
7	私は、子どもが安心感を持てるように保育ができると思う

8	私は、子どもが自分を好きで、自信が持てるように保育ができと思う
9	私は、子どもの人間関係の広がりやを考慮したクラス編成や保育形態を 実践できと思う
10	私は、子どもが共同のものを大切に、譲り合って遊べるように指導 や援助ができと思う
11	私は、子ども同士のコミュニケーション能力を育む保育を実践でき と思う
12	私は、保育の発展と人間関係の育ちを結び付けてとらえることが出来 ると思う

表 8 多次元保育者効力感尺度（西山 2006）

番号	多次元「人間関係」保育者効力感尺度項目
第 1 因子 人とのかかわる基盤をつくる	
1	信頼される存在として子どものそばにいること
2	子どもにとって心のより所になること
3	子どもとの安定した関係を築くこと
4	子ども一人一人をありのままに受容すること
5	子どもの自我（思い、言い分）を大切にすること
第 2 因子 発達の視点で子どもを捉えかかわる	
6	子どもの人間関係の発達に応じてかかわること
7	子どもの人間関係の育ちに即して、環境を構成すること
8	子どもの人間関係の発達について、見通しをもって援助すること
9	保育の展開と人間関係の育ちを結び付けて捉えること
10	子どもの人間関係の育ちについて専門的な知識を生かすこと
第 3 因子 子ども同士の関係を育てる	
11	けんかや葛藤を経ながらも、子ども同士で解決できるように援助する こと
12	自己主張や反抗も自我の育ちと捉えて適切に対応すること
13	子どもが他の子どもの発言や気持ちを受け入れられるよう援助するこ と

14	園生活の中で、必要な道徳性を身につけるように保育すること
15	子どもが友達とかかわることで充実感や満足感を味わえるような保育をすること
第4因子 基本的な生活習慣・態度を育てる	
16	子どもが生活上のルールを知ることができるように保育すること
17	社会生活上の習慣や態度を子どもが身につけていけるよう援助すること
18	きまりや約束の大切さに気付き、守ろうとする態度が育つ保育をすること
19	子どもがよいことや悪いことがあることに気付き、行動できるよう実践すること
20	園生活の中で子どもの自立心を育むこと
第5因子 関係性の広がりを支える	
21	地域のお年寄りなど身近な人に感謝の気持ちをもてるよう実践すること
22	子どもが地域の人々など自分の生活に関係のある人に親しみをもてるよう援助すること
23	特別な支援を要する子どもも含めたクラスの豊かな関係をつくること
24	外国の人などの文化の違いに気付き、尊重する心が育つよう保育すること
25	子どもが様々な人と触れ合いながら人間関係を広げていけるよう援助すること

表9 保育実習自己効力感尺度（小藺江 2009）

番号	尺度項目
1	アドバイスを生かす
2	子どもから学ぶ
3	アドバイスの確実実行
4	命を預かる責任感
5	手本となる身のこなし
6	身だしなみ清潔感

7	スキンシップ
8	指導者の意図理解
9	ストレス対処（自己）
10	落ち込み対処方略
11	気持ちの切り替え
12	困難時問題明確化
13	自己激励
14	事前学習（児について）
15	事前学習（園について）
16	環境整備安全等
17	事前準備手遊び等
18	児童興味把握
19	父母と同視点での思考
20	親子関係実態読み取り
21	父母の相談にのる力量
22	玩具等手作り工夫
23	活動と道具使用の工夫
24	教材を蓄積準備
25	身近な出来事を教材化
26	児への気配り関わり
27	児への意欲惹起の言葉
28	児への笑顔での言葉

Ⅱ－３．保育者効力感に関する測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性の検討

(1) 内容的妥当性について

上記の検討に従い、批判的論評を行う測定尺度は、①保育者効力感尺度（三木・桜井 1998）、② The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)、③保育者効力感尺度（岩井 2003）、④ Turkish version of Teachers' Sense of Efficiency Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a)、⑤ 12 項目「人間関係」尺度（西山 2005）、⑥多次元保育者効力感尺度（西山

2006)、⑦保育実習自己効力感尺度(小藺江 2009)の7種類とした。

上記①～⑦のすべての尺度において、内容的妥当性の検討のために探索的な因子分析がなされていた。そのうち、探索的因子分析の過程において、因子抽出法に最尤法もしくは最小二乗法が採用されていた測定尺度は、12項目「人間関係」尺度(西山 2005)と多次元保育者効力感尺度(西山 2006)であり、前者は最小二乗法、後者は最尤法によるものであった。また、探索的因子分析により検討されていた上記7種類のうち、因子抽出における因子軸の回転法として斜交回転(プロマックス回転)が採用されていた測定尺度は、12項目「人間関係」尺度(西山 2005)と多次元保育者効力感尺度(西山 2006)であった。

なお、保育者効力感尺度(三木・桜井 1998)と保育実習自己効力感尺度(小藺江 2009)は、因子抽出法がともに主因子法で、保育者効力感尺度(三木・桜井 1998)、The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)、Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakiroğlu and Sarıkaya 2005a)³⁾、保育実習自己効力感尺度(小藺江 2009)は直交回転(バリマックス回転)が採用されていた。なお、The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)は因子抽出法についての記載がなかった。さらに、保育者効力感尺度(岩井 2003)は、因子抽出法と因子抽出における因子軸の回転法について、ともに記載がなかった。

(2) 構成概念妥当性について

上記7種類の測定尺度のうち、確認的因子分析により因子モデルの側面から構成概念妥当性が検討されていたのは、④ Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakiroğlu and Sarıkaya 2005a)と⑥多次元保育者効力感尺度(西山 2006)であった。④ Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakiroğlu and Sarıkaya 2005a)は、3因子斜交因子構造モデルが検討され、モデルの適合度指標として、TLI (Tucker-Lewis Index)、CFI (Comparative Fit Index)、RMSEA (Root Mean Square Error

of Approximation) が使用されている。その結果、 $TLI = 0.99$ 、 $CFI = 0.99$ で適合度が高いこと、 $RMSEA = 0.064$ であり、可もなく不可もない適合度であることを述べている (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a:78)。また、⑥多次元保育者効力感尺度 (西山 2006) は、二次因子構造モデルが検討され、モデルの適合度指標として、GFI (Goodness of Fit Index)、CFI (Comparative Fit Index)、RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation) を用いた。その結果、 $GFI = 0.894$ 、 $CFI = 0.936$ 、 $RMSEA = 0.061$ と適合度はいずれも高く、モデルが妥当であると述べている (西山 2006:155)。

以上、7 種類の保育者効力感測定尺度に関する妥当性を内容的妥当性と構成概念妥当性に着目し、統計学的な側面から分析した結果は表 10 に示した通りである。

表 10 保育者効力感測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性

	保育者効力感測定尺度	内容的妥当性			構成概念妥当性	
		探索的因子分析			確認的因子分析	
		分析の実施	最尤法または最小二乗法	斜交回転	分析の実施	適合度
1	保育者効力感尺度 (三木・桜井 1998)	○	× 主因子法	× バリマックス回転	×	×
2	The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)	○	× 記載なし	× バリマックス回転	×	×
3	保育者効力感尺度 (岩井 2003)	○	× 記載なし	× 記載なし	×	×
4	Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a)	The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001) の 24 項目バージョンを採用しており、因子抽出法及び因子軸の回転法について記載なし。			○	○
5	12 項目「人間関係」尺度 (西山 2005)	○	○ 最小二乗法	○ プロマックス回転	×	×
6	多次元保育者効力感尺度 (西山 2006)	○	○最尤法	○ プロマックス回転	○	○
7	保育実習自己効力感尺度 (小蘭江 2009)	○	×主因子法	×バリマックス回転	×	×

Ⅲ. 結論

本研究は、保育者効力感の尺度開発に関する指針を得ることをねらいとして、保育者効力感測定尺度を用いた国内の研究論文について、統計学的な視点から批判的論評を行うことを目的に行った。

収集した研究論文において、数量化をねらいとして開発された保育者効力感測定尺度は、①保育者効力感尺度（三木・桜井 1998）、② The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001)、③ 保育者効力感尺度（岩井 2003）、④ Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a)、⑤ 12 項目「人間関係」尺度（西山 2005）、⑥ 多次元保育者効力感尺度（西山 2006）、⑦ 保育実習自己効力感尺度（小藺江 2009）の 7 種類であった。これら 7 種類の尺度のうち、内容的妥当性と構成概念妥当性を十分に備えているとみなされた尺度は、多次元保育者効力感尺度（西山 2006）であった。本研究が採用した統計的評価基準が尺度の妥当性を評価するすべての方法ではないが、内容的妥当性と構成概念妥当性が確認された保育者効力感測定尺度があることが明らかになった。特に多次元保育者効力感尺度を用いることで、科学的に有効な介入を検討することができると考えられる。

しかし、多次元保育者効力感尺度は、保育者効力感を「人間関係」に限定している。2020 年代から学習指導要領の全面改訂が予定される中、子どもの育ちは幼児教育から小学校、中学校、高等学校まで一貫してとらえられるようになり、保育所保育指針の第 4 次改定は、この学習指導要領の改訂に基づく教育要領と歩調を合わせて改定された。これまで、幼児教育の 5 領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」と、教科を中心とする小学校以上の教育は異なっており、この点が幼児教育と小学校教育との円滑な接続における大きな課題とされてきた。この課題に対して、今後、保育者が保幼小接続を意識した幼児教育を求められる中、保育者が自己点検・評価できるよう、保育内容 5 領域に関する保育者効力感測定尺度の開発が急務であると考えられる。適切な統計手法を用いて尺度が開発されるならば、保育者の効力感を維持、向上のための

有効な機能を提供するとともに、保育の質の向上につながり、子どもの最善の利益の尊重の一助にもつながると言えよう。

注

- 1) 改訂とは、主に文章について述べ方、また、述べてある内容を、直し改めるという意味である。
- 2) 改定とは、法律や制度等において、今までの決まっていた事を改めて、決め直すという意味である。
- 3) Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale (Çapa, Çakıroğlu and Sarıkaya 2005a) は因子抽出法と因子軸の回転法について記載はないが、The Ohio State teacher efficacy scale (OSTES) (Tschannen-Moran and Hoy 2001) の24項目バージョンを採用していることから、因子抽出法について記載がなく、因子抽出における因子軸の回転法に直交回転（バリマックス回転）が採用されているとした（表10を参照）。

文献

- 厚生労働省（2016）「保育所保育指針の改定について」
<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000125007.pdf>, 2018.4.7)
- 田辺昌吾(2011)「心身ともに健康な子どもを育むための保育者の資質について：『健康』保育者効力感からの検討」『四天王寺大学紀要』51,175-185.
- Bandura,A. (1977) Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change, *Psychological Review*, 84 : 191-215.
- 三木知子・桜井茂男（1998）「保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響」『教育心理学研究』46（2），203-211.
- 水野里恵（2001）「幼児教育専攻学生の保育者効力感—その発達過程と保育実習評価との関連—」『愛知江南短期大学紀要』30，97-110.
- 西坂小百合（2002）「幼稚園教諭の精神的健康に及ぼすストレス、ハーディネス、

- 保育者効力感の影響』『教育心理学研究』50 (3) ,283-290.
- 前田直樹・金丸靖代・畑田惣一郎 (2009)「保育者効力感、社会的スキルと職務満足感が保育士の精神的健康に与える影響」『九州保健福祉大学研究紀要』10,17-23.
- 渡部努・嶋崎博嗣 (2004)「保育者の保育者効力感と心理社会的要因に対する過去の遊び経験の影響」『日本保育学会大会発表論文集』57,192-193.
- 岩井勇児 (2004)「保育者効力感と食事行動」『名古屋柳城短期大学研究紀要』26, 163-175.
- 中村多見 (2006)「保育学生の保育観 (1) : 保育者効力感の発達」『高松大学紀要』45, 197-206.
- 浜崎隆司・加藤孝士・寺薊さおり・荒木美代子・岡本かおり (2008)「保育実習が保育者効力感, 自己評価に及ぼす影響: 実習評価を媒介した因果モデルの検討」『鳴門教育大学研究紀要』23,121-127.
- 朝木徹・鈴木由美 (2009)「子どもの人間関係を育む保育実践の要因: 保育者効力感と子ども観の関連について」『児童学研究: 聖徳大学児童学研究紀要』11,109-119.
- 池田幸代・大川一郎 (2012)「保育士・幼稚園教諭のストレスが職務に対する精神状態に及ぼす影響: 保育者の職務や職場環境に対する認識を媒介変数として」『発達心理学研究』23 (1) ,23-35.
- 田頭伸子 (2012)「保育者効力感が離職動機に及ぼす影響について: 保育者養成校卒業生の保育職就労者を対象にした分析」『広島文化学園短期大学紀要』45,11-16.
- 田頭伸子 (2015)「保育者効力感に及ぼす一般性自己効力感と学業ストレス対処方略の影響: 保育専攻短大生における学年差の検討」『広島文化学園短期大学紀要』48,49-55.
- 川村高弘・庄司圭子・三木さち子 (2015)「保育者のレジリエンスと保育者効力感の関連」『論攷: 神戸女子短期大学紀要』60,9-16.
- 小河妙子・長屋佐和子 (2015)「保育士養成課程に在籍する学生の職業認知が

- 保育者効力感に及ぼす影響」『名古屋女子大学紀要』61,109-116.
- 田頭伸子（2016）「保育者効力感の発達の变化について：保育専攻短大生と保育者の比較」『広島文化学園短期大学紀要』49,29-33.
- 三木知子（2016）「保育専攻学生の保育者効力感（PTE）に及ぼす実習自己評価の影響」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』9（2）,147-155.
- 豊田秀樹（2000）『共分散構造分析〔応用編〕－構造方程式モデリング－』朝倉書店.
- 豊田秀樹（1998）『共分散構造分析〔入門編〕－構造方程式モデリング－』朝倉書店.
- 高橋順一・黒木保博・中嶋和夫（2014）「社会福祉領域で使用されている QOL 測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』111, 113-124.
- 孟浚鎬（2015）「高齢者の自殺念慮測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』115,27-41.
- 山本智恵子・西村夏代・山口三重子・出井涼介・中嶋和夫（2017）「看護職者の共感に関連したストレス測定尺度に関する批判的論評」『新見公立大学紀要』38, 57-64.
- 西村夏代・出井涼介・中嶋和夫・山口三重子（2017）「看護師のワーク・モチベーション測定尺度に関する批判的論評」『ヒューマンケア研究学会誌』8（2）,1-7.
- 三宅 幹子（2005）「保育者効力感研究の概観」『福山大学人間文化学部紀要』5, 31-38.
- Petrie, Jessica Taisey, and Holloway, Susan D. (2006) Mothers' Representations of the Role of Parents and Preschools in Promoting Children's Development, *Early Childhood Research & Practice*, 8（2）.
- Barnes, Susan K. ,and Burchard, Melinda S. (2006) Quality and Utility of the Multi-Tiered Instruction Self-Efficacy Scale, *Research & Practice in Assessment*, 6, 22-42.
- Feil, Edward G., Frey, Andy, Walker, Hill M., Small, Jason W., Seeley, John R., Golly, Annemieke, and Forness, Steven R. (2014) The Efficacy of a

- Home-School Intervention for Preschoolers With Challenging Behaviors: A Randomized Controlled Trial of Preschool First Step to Success, *Journal of Early Intervention*, 36 (3) , 151-170.
- Buyse, Virginia, Peisner-Feinberg, Ellen, and Burchinal, Margaret (2012) Recognition & Response: Developing and Evaluating a Model of RTI for Pre-K, *Society for Research on Educational Effectiveness*.
- Pekdogan, Serpil, and Korkmaz, Halil Ibrahim (2016) Improving the Perception of Self-Sufficiency towards Creative Drama, *European Journal of Educational Research*, 5 (3) , 101-108.
- Vukušić, Anita Mandarić (2018) Self-Evaluation of Parental Competence-Differences between Parents with Pedagogical and Non-Pedagogical Professions, *World Journal of Education*, 8 (2) , 1-9.
- 三宅幹子 (2005) 「保育者効力感研究の概観」『福山大学人間文化学部紀要』5, 31-38.
- Davis, Julie, Lennox, Sandra, Walker, Sue, and Walsh, Kerryann (2007) Exploring Staff Perceptions: Early Childhood Teacher Educators Examine Online Teaching and Learning Challenges and Dilemmas, *International Journal for the Scholarship of Teaching and Learning*, 1 (2) .
- Jamil, Faiza M. (2012) My Teaching Partner : A Professional Development Intervention for Teacher Self-Efficacy, *Society for Research on Educational Effectiveness*.
- Tanriseven, Isil (2013) The Effect of School Practices on Teacher Candidates' Sense of Efficacy Relating to Use of Drama in Education, *Educational Sciences: Theory and Practice*, 13 (2) , 402-412.
- Tortop, Hasan Said (2014) Examining the Effectiveness of the In-Service Training Program for the Education of the Academically Gifted Students in Turkey: A Case Study, *Journal for the Education of the Young Scientist and Giftedness*, 2 (2) , 67-86.

- 井上祐子 (2014) 「保育者効力感に関する研究動向と課題」『国際人間学部紀要』 20, 47-62.
- Ottley, Jennifer R., Piasta, Shayne B., Mauck, Susan A., O'Connell, Ann, Weber-Mayrer, Melissa, and Justice, Laura M. (2015) The Nature and Extent of Change in Early Childhood Educators' Language and Literacy Knowledge and Beliefs, *Grantee Submission, Teaching and Teacher Education*, 52, 47-55.
- Akçay, Nilüfer Okur (2016) Determining the Views and Adequacy of the Preschool Teachers Related to Science Activities, *Universal Journal of Educational Research*, 4 (4) , 821-829.
- Wetzels, Annemie, Steenbeek, Henderien, and Van Geert, Paul (2016) A Complexity Approach to Investigating the Effectiveness of an Intervention for Lower Grade Teachers on Teaching Science, *An International Journal of Complexity and Education*, 13 (1) , 81-104.
- Clara Pracana, and Michael Wang (2016) International Psychological Applications Conference and Trends (InPACT) 2016 (Lisbon, Portugal, April 30-May 2, 2016) , *Online Submission*.
- Hakan Sarı, Nadir Çeliköz and Zarife Seçer (2009) An Analysis of Pre-School Teachers' and Student Teachers' Attitudes to Inclusion and Their Self-Efficacy, *International Journal of Special Education*, 24 (3) , 29-44.
- Aydogdu, Bülent, and Peker, Murat (2016) Science and Mathematics Teaching Efficacy Beliefs of Pre-School Teachers, *Universal Journal of Educational Research*, 4 (11) , 2541-2550.
- Aslan, Durmus, Tas, Isil, and Ogul, Irem Gürgah (2016) Pre- and In-Service Preschool Teachers' Science Teaching Efficacy Beliefs, *Educational Research and Reviews*, 11 (14) , 1344-1350.
- 本多潤子・櫻井登世子 (2011) 「幼稚園教育実習における実習不安の類型とその特徴」『田園調布学園大学紀要』 6, 49-60.

- Lee, Hsing-Ming, Chou, Mei-Ju, Chin, Chia-Hui, and Wu, Ho-Tang (2017) The Relationship between Psychological Capital and Professional Commitment of Preschool Teachers: The Moderating Role of Working Years, *Universal Journal of Educational Research*, 5 (5) , 891-900.
- 小藪江幸子 (2009) 「保育実習自己効力感尺度作成の試み」『淑徳短期大学研究紀要』 48,123-135.
- 桐村元子・岡本紗由美・森田記子 (2010) 「常勤保育者と学生の保育者効力感の比較」『保育研究』 38,19-23.
- 小藪江幸子 (2013) 「保育実習が学生の自己効力感に与える影響: 保育専攻学生 2 年間の縦断的データの分析」『淑徳短期大学研究紀要』 52,117-128.
- 小藪江幸子 (2014) 「保育実習が学生の自己効力感に与える影響: 実習回数の違いによる自己効力感の特徴」『淑徳短期大学研究紀要』 53, 97-112.
- Megan Tschannen-Morana, and Anita Woolfolk Hoy (2001) Teacher efficacy: capturing an elusive construct, *Teaching and Teacher Education*, 17 (7) , 783-805.
- Cobbold, Cosmas, and Boateng, Philip (2016) How Confident Are Kindergarten Teachers in Their Ability to Keep Order in the Classroom? A Study of Teacher Efficacy in Classroom Management, *Journal of Education and Practice*, 7 (36) ,181-190.
- 岩井勇児 (2003) 「保育者効力感と親からの自立」『名古屋柳城短期大学研究紀要』 25, 157-170.
- Çapa, Y., Çakıroğlu, J., and Sarikaya. H. (2005a) The development and validation of a Turkish version of teachers' sense of efficacy scale. *Education and Science*, 30 (137) , 74-81.
- Çapa, Y., Çakıroğlu, J., and Sarikaya. H. (2005b) Turkish version of Teachers' Sense of Efficacy Scale.
- (<http://wmpeople.wm.edu/asset/index/mxtsch/turkishtses>, 2018.8.26).
- Orçan, Maide (2013) Examination of Self-Efficacy and Burnout Dynamics of

- Preschool Teachers in Turkey and the United States. *European Journal of Educational Research*, 2 (1) , 25-35.
- Toran, Mehmet (2017) An Analysis of Preschool Teachers' Sense of Efficacy: A Case of TRNC. *Journal of Education and Training Studies*, 5 (4) , 121-131.
- 西山修 (2005) 「幼児の人とかかわる力を育むための保育者効力感尺度の開発」『乳幼児教育学研究』14,101-108.
- 西山修 (2006) 「幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成」『保育学研究』44 (2) ,246-256.
- 小林真・浅野可珠 (2016) 「大学生の保育者効力感の規定要因：教育実習の効果と社会的スキルの影響」『富山大学人間発達科学部紀要』10 (2) , 115-123.
- 中山真 (2016) 「教育・保育実習による保育者効力感の変化に二次元レジリエンスが及ぼす影響」『鈴鹿大学短期大学部』36,125-133.
- 芝崎美和 (2017) 「領域『人間関係』保育者効力感における協同学習の効果の検討」『新見公立大学紀要』38 (1) , 51-56.
- 京林由希子・中村光・佐藤和順・中野菜穂子・池田隆英・新山順子・樟本千里 (2018) 「幼稚園教諭免許状取得の特例講座を受講する保育士の保育者効力感の特徴：領域「人間関係」の保育者効力感の観点から」『岡山県立大学保健福祉学部紀要』24,59-65.
- 桜井茂男 (1992) 「教育学部生の教師効力感」『日本教育心理学会総会発表論文集』34, L1.

論文要旨

A Critical Review on development process of preschool and nursery teachers' efficacy scales

Yuko Inoue, Junichi Takahashi, Yasuhiro Kuroki and Kazuo Nakajima

In this study, we take up the preschool and nursery teachers' efficacy scales, it especially aimed to write critical review from a statistical point of view on the development process of preschool and nursery teachers' efficacy scales. Web searches were conducted using 2 databases, "CiNii" and "ERIC". The efficacy scale related to preschool and nursery teacher which be extracted from 15 papers was aggregated into seven types. In the analysis, we paid attention to content validity and construct validity of the seven preschool and nursery teachers' efficacy scales on scale development, and evaluated whether appropriate statistical methods were adopted or not. As a result, we concluded that only "Multidimensional Childcare Persons' Efficacy Scale" had adopted the appropriate statistical method in the development process. Therefore, considering that this scale measures only the effectiveness concerning "human relationships" as a part of the contents of childcare, it is desirable that we develop the preschool and nursery teachers' efficacy scale on the Five Areas of child's Development.

Key words: preschool and nursery teachers, preschool and nursery teachers' efficacy, scale, critical review, validity